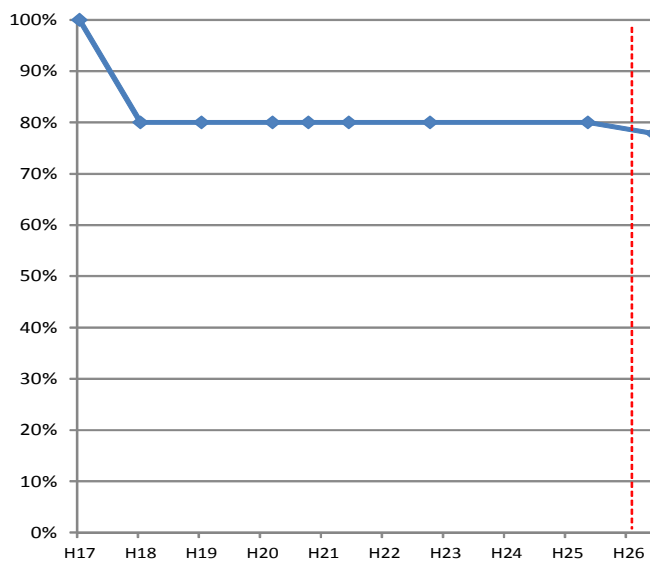


樹種名	フウ	
科 目	フウ科	
学 名	<i>Liquidambar formosana</i>	
分 布	フウ属の落葉高木であり、原産地は台湾、中国南部に分布する。 日本には江戸時代中期、享保年間に渡来した。同属のモミジバフウとともに並木や公園などに植栽され、繁殖力が旺盛である。	
樹木特性	日本には、享保年間に渡来し、馴染み深い樹種である。 古くから公園などに植栽されてきたが、近年では街路樹に使われることが多くなり、目立つようになってきた。漢字では「楓」であり、これが本来のカエデであるのかもしれない。	
用 途	街路樹、公園樹として利用。	  
植栽本数/面積 (植栽密度)	18 本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 樹高は 20m ほどになるとされるが、原産地では 40~60m もの大木になり、樹形は主幹がよく伸びて針葉樹のような樹形になる。 フウの葉は互生であり、フウの葉は大きさの割には、平坦・平らな印象がある。長さは 7~15cm で3つに中裂し、やや長さよりも左右に長いものが多い。裂片の先端は長い尾状となり、縁には突端で終わる鋸歯がある。長い葉柄があり、長さ 8~10cm。葉柄の基部には、一對の線状の付属体がある。おそらく、托葉が葉柄の基部に合着したものである。葉柄と葉脈の基部は赤味を帯びることが多い。新葉時には葉柄や裏面に毛があるが、やがて脱落して少なくなる。若枝には褐色の毛が多い。4 月には葉の展開と同時に、枝先に総状の目立たない花を咲かせる。フウの紅葉は美しい。緑から黄色味を帯び、やがて紅色となる。 庭木、街路樹、公園樹として利用される。 近縁種にモミジバフウが知られる。これに対して本種をサンカクバフウまたはタイワンフウと呼ぶこともある。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、現存率、成長状況ともに良好であるが、一部にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が見られる。 成長量は大きく、植栽から 9 年で平均樹高は 11m 程度まで成長している。	
被 害	一部にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害やヒモワタカイガラムシの発生が見られる。	

フウ 現存率



【現存率】

植栽後、コウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により2本が枯死した。

平成18年度以降の枯死は見られない。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は77.8%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

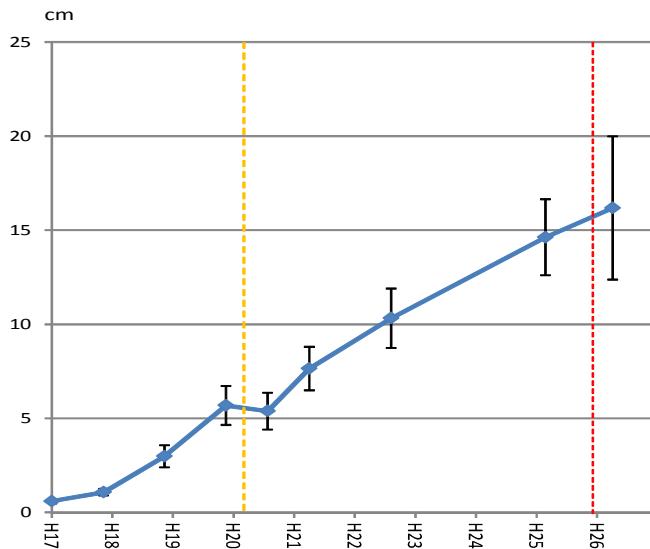
順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は16.18 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

フウ 根元・胸高直径



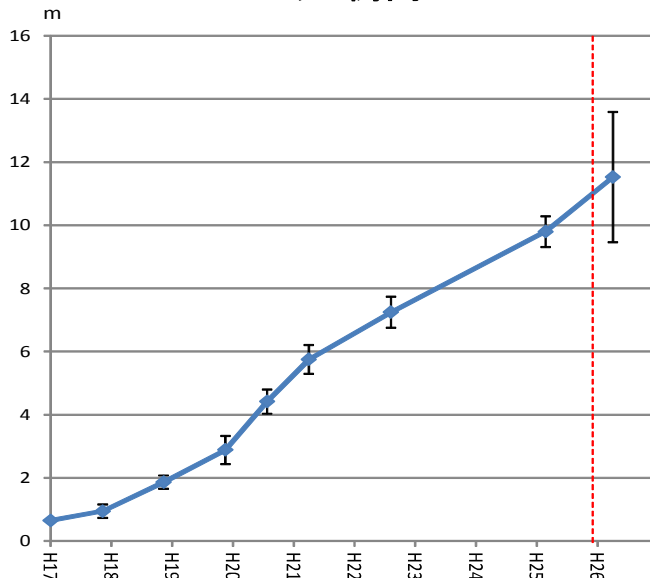
【樹 高】

順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は11.53mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

フウ 樹高



《プチ情報》

種名は「台湾の」の意味。別名、サンカクバフウ（三角葉楓）、タイワンフウ（台湾楓）、イガカエデ（伊賀楓）、カモカエデ（賀茂楓）。古名、オカツラ（男桂）。

独特の香りのある樹脂を「楓香脂」として薬用にする。